

LuaL^AT_EX-j_a ドキュメント記述用クラス

LuaT_EX-j_a プロジェクト

2026-04-20

ltjltxdoc クラスは、ltxdoc をテンプレートにして、日本語用の修正を加えています。

```
1 %<*class>
2 \DeclareOption*{\PassOptionsToClass{\CurrentOption}{ltxdoc}}
3 \ProcessOptions
4 \LoadClass{ltxdoc}
```

ltxdoc の読み込み後に luatexja を読み込みます。

```
5 \RequirePackage{luatexja}
6 \def\Cjascale{0.962216}
```

`\normalsize` ltxdoc からロードされる article クラスでの行間などの設定値で、日本語の文章
`\small` を組版すると、行間が狭いように思われるので、多少広くするように再設定します。
`\parindent` また、段落先頭での字下げ量を全角一文字分とします。

```
7 \renewcommand{\normalsize}{%
8   \setfontsize\normalsize\@xpt{15}%
9   \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
10  \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
11  \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
12  \belowdisplayskip \abovedisplayskip
13  \let\@listi\@listI}
14 \renewcommand{\small}{%
15  \setfontsize\small\@ixpt{11}%
16  \abovedisplayskip 8.5\p@ \@plus3\p@ \@minus4\p@
17  \abovedisplayshortskip \z@ \@plus2\p@
18  \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
19  \def\@listi{\leftmargin\leftmarginI
20             \topsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
21             \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
22             \itemsep \parsep}%
23  \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
24 \normalsize
25 \setlength\parindent{1\zw}
```

`\file` `\file` マクロは、ファイル名を示すのに用います。

```
26 \providecommand*{\file}[1]{\texttt{#1}}
```

`\pstyle` `\pstyle` マクロは、ページスタイル名を示すのに用います。

```
27 \providecommand*{\pstyle}[1]{\textsl{#1}}
```

`\Lcount` `\Lcount` マクロは、カウンタ名を示すのに用います。

```
28 \providecommand*{\Lcount}[1]{\textsl{\small#1}}
```

`\Lopt` `\Lopt` マクロは、クラスオプションやパッケージオプションを示すのに用います。

```
29 \providecommand*{\Lopt}[1]{\textsf{#1}}
```

`\dst` `\dst` マクロは、“DOCSTRIP”を出力する。

```
30 \providecommand\dst{\normalfont\scshape docstrip}}
```

`\NFSS` `\NFSS` マクロは、“NFSS”を出力します。

```
31 \providecommand\NFSS{\textsf{NFSS}}
```

`\c@clinen` `\mlineplus` マクロは、その時点でのマクロコードの行番号に、引数に指定された
`\mlineplus` 行数だけを加えた数値を出力します。たとえば `\mlineplus{3}` とすれば、直前のマ
クロコードの行番号 (31) に 3 を加えた数、“34”が出力されます。

```
32 \newcounter{@clinen}
33 \def\mlineplus#1{\setcounter{@clinen}{\arabic{CodelineNo}}}%
34 \addtocounter{@clinen}{#1}\arabic{@clinen}}
```

`tsample (env.)` `tsample` 環境は、環境内に指定された内容を罫線で囲って出力をします。第一引数
は、出力するボックスの高さです。このマクロ内では縦組になることに注意してく
ださい。

```
35 \def\tsample#1{%
36   \hbox to\linewidth\bgroup\vrule width.1pt\hss
37   \vbox\bgroup\hrule height.1pt
38     \vskip.5\baselineskip
39     \vbox to\linewidth\bgroup\tate\hsize=#1\relax\vss}
40 \def\endtsample{%
41   \vss\egroup
42   \vskip.5\baselineskip
43   \hrule height.1pt\egroup
44   \hss\vrule width.1pt\egroup}
```

`\verb` p_LTEX では、`\verb` コマンドを修正して直前に `\xkanjiskip` が入るようにしてい
ます。しかし、`ltxdoc.cls` が読み込む `doc.sty` が上書きしてしまいますので、こ
れを再々定義します。`doc.sty` での定義は

```
\def\verb{\relax\ifmmode\hbox\else\leavevmode\null\fi
\bgroup \let\do\do@noligs \verbatim@nolig@list
\ttfamily \verb@eol@error \let\do\@makeother \dospecials
\@ifstar{\@sverb}{\@vobeyspaces \frenchspacing \@sverb}}
```

となっていますので、`plcore.dtx` と同様に `\null` を外して `\vadjust{}` を入れます。

```
45 % \begin{macrocode}
46 \def\verb{\relax\ifmmode\hbox\else\leavevmode\vadjust{}}\fi
47 \bgroup \let\do\do@noligs \verbatim@nolig@list
48 \ttfamily \let\verb@fontsetup \verb@eol@error \let\do\@makeother \dospecials
49 \@ifstar{\@sverb}{\@vobeyspaces \frenchspacing \@sverb}}
```

alxspmode コマンド名の \ と 16 進数を示すための " の前にもスペースが入るよう、これらの alxspmode の値を変更します。

```
50 \ltjsetparameter{alxspmode={"5C,3}} %% \
51 \ltjsetparameter{alxspmode={"22,3}} %% "
52 %</class>
```

mod@math@codes doc パッケージでは、ドライバ指定の表示の部分における | の \mathcode は "226A になっており、これにより | が小文字の j で表示されてしまう状況になっています。改善するため、"207C に変更します。

```
53 \def\mod@math@codes{\mathcode`\|="207C \mathcode`\&="2026
54 \mathcode`\-="702D \mathcode`\+="702B
55 \mathcode`\:="703A \mathcode`\=="703D }
```